

大気科学の100年：その成果と今後の課題

Centenary of the atmospheric sciences: Its progress and future issues

*中島 映至¹

*Teruyuki Nakajima¹

1. 宇宙航空研究開発機構

1. Japan Aerospace Exploration Agency

IUGG（国際測地学及び地球物理学連合）の協会の一つであるIAMAS（国際気象学・大気科学協会）は、2019年にIUGGとともに設立後100周年を迎える。7月にモントリオールで開かれるIUGG総会等における記念行事や記念事業が行われる予定である。大気科学は、人類の生活に関わる様々な気象現象に関わる科学として古くから発展して来た。その成果にも社会に関わる重要な問題が多い。特に過去100年間には、気象予測基盤の確立、地球温暖化問題やオゾンホールなどの環境問題などへの対応などの大きな発展があり、その俯瞰は、我々が将来何をしてゆくべきかについて多くの示唆を得ることができる。本発表では、このような大気科学の過去と未来について語りたい。特に、この時代は、気候と環境変化の顕在化、災害の増加に伴って、観測と現象の理解がますます必要となっており、社会科学との協働などの他圏との協働などの課題が多い。その点についても議論したい。

キーワード：大気科学、100 years

Keywords: Atmospheric sciences, 100 years